



たのしい、おいしい、あたらしい

# 栗山米菓の物流改革と 賞味期限の年月表示化の事例報告

株式会社 栗山米菓

物流管理部

# 株式会社 栗山米菓 ?

# Befco ?



挑戦し続け、  
心躍る未来を創る。

代表取締役社長 栗山 大河

弊社は創業以来、“ばかうけ”“星たべよ”のキャラクター展開を始めとして、米菓という伝統菓子において従来の枠にとらわれない挑戦を重ねてまいりました。この「新しい試みに挑戦する精神」をコーポレートブランドとして設定することで、米菓という原点を大切にしながらも自らの力でその領域を超えていく、躍動感あふれる企業を目指します。

## - Beika Frontier Company

「Befco(ベフコ)」とはBeika(ベイカ)Frontier(フロンティア)Company(カンパニー)の頭文字から名付けました。ベイカ・フロンティア・カンパニーは、米菓の可能性に挑みます。ベイカ・フロンティア・カンパニーは、あられ・おせんべいのカテゴリーと、異なる食品カテゴリーとの境界領域(フロンティア)で新たな価値を創造します。ベイカ・フロンティア・カンパニーは米菓を超えて、お菓子や食品などのあたらしいおいしさとたのしさを提供する会社(カンパニー)をめざします。世界の誰もが覚えやすく、いいやすく、ききとりやすいブランドネームの”Befco”で世界の誰からも愛されるブランドづくりに邁進します。



# STORY

- 背景：物流2024年問題、物流リソース不測の危機感
  - メーカーとしての努力
  - 幹線物流のパレット化
  - 賞味期限の年月表示化
  - リードタイムの延長
- 効果の指標をトラックの滞在期間に
- 事例：冬の北海道ルート
- 新たな問題と対策
- 物流の最適化と食品ロス

## 株式会社 栗山米菓

AIイノベーション推進室 室長  
物流管理部、情報システム部 部長

阿部 真也

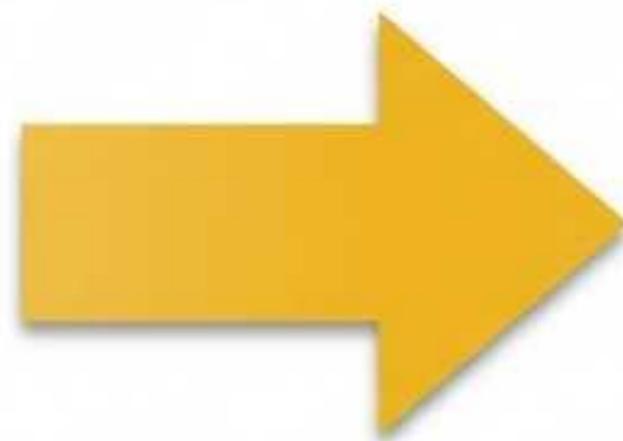
# 迫り来る危機の予兆：顕在化する配送リスク

- 年末の**繁忙期**と**初雪**が重なる時期に発生した深刻な事態
- 「**トラックが確保できない**」という予測不可能な事例が頻発
- お客様へ商品をお届けできない**リスク**が現実のものとして顕在化



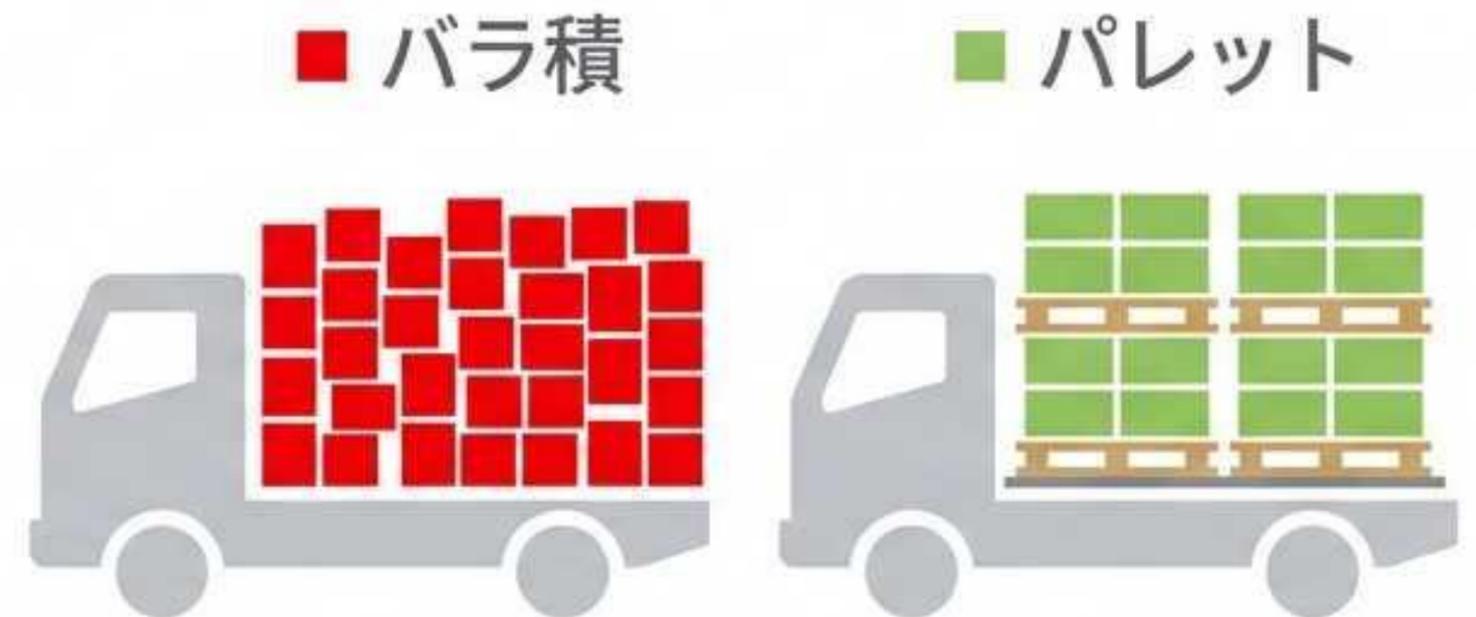
# メーカーとしての「視点の転換」

- 物流の実務は外部委託（自社でドライバーを直接管理できない環境）
- トラックや人員を変えるのではなく、「荷物（商品）」を変える決断
- メーカーとして、商品の改良・包装の改善に全力を注ぐアプローチへシフト



# 第一歩：幹線物流のパレット化（2023年度～）

- バラ積みから、10tトラックに2段積みできるパレット荷姿へ変更
- ケースサイズを変更せずに対応できるCVS向け小型商品から順次開始
- 将来的には生産設備の改修を伴うサイズ変更も見据えたモジュール化を推進



2026年1月時点 パレット化率

68%

# 核心への挑戦：賞味期限の「年月表示化」

- ・ 2024年度より、在庫管理と流通段階の負荷軽減に向けた大改革を開始
- ・ 従来の「年月日 (YYYY.MM.DD)」から「年月 (YYYY.MM)」表示へ切り替え
- ・ ピッキングや庫内作業の煩雑さを劇的に簡素化する土台作り

2024.~~10.15~~ → 2024.10

2026年1月時点 年月表示化率

70%

# 品質担保とリスクの極小化

- 年月表示化の前提となる、商品の包装・原材料・賞味期限設定プロセスの抜本的見直し
- 品質を確実に担保できる商品から段階的に切り替えを実行
- 流通段階での不良発覚時、大規模ロット回収のリスクを抑制するため、生産から出荷までのトレーサビリティとプロセスを変更



生産

品質検査・プロセス

安全な出荷

# 協力による最適化：リードタイムを「D+2」へ

- ・発注から納品までの時間的余裕を確保し、作業を平準化
- ・得意先との綿密なすり合わせにより、リードタイムを延長（D+2）
- ・出荷指示、ピッキング、車両手配の精度が向上し、安定供給と車両効率の改善を実現



# 目標達成：トラック滞在時間を「1時間未満」へ

- 物流現場の明確な目標設定：幹線便トラックの滞在時間を「平均1時間未満」に
- 商品の規格変更と並行した、庫内作業（ピッキング等）の劇的な改善
- 結果として、各種取り組みが連動し、出荷時の平均滞在時間1時間未満を達成

- 結果として、各種取り組みが連動し、出荷時の平均滞在時間1時間未満を達成



平均1時間未満達成

## 真価を発揮した冬：北海道ルートへの試練

- 今冬、北海道への輸送ルートで予期せぬ事故が発生
- 大雪の影響により、積載していたJR貨物コンテナが長期間運休・足止め状態に
- 急遽、陸送や船便への切り替え輸送を手配する緊急事態へ発展



# 年月表示が救った「大量の食品ロス」

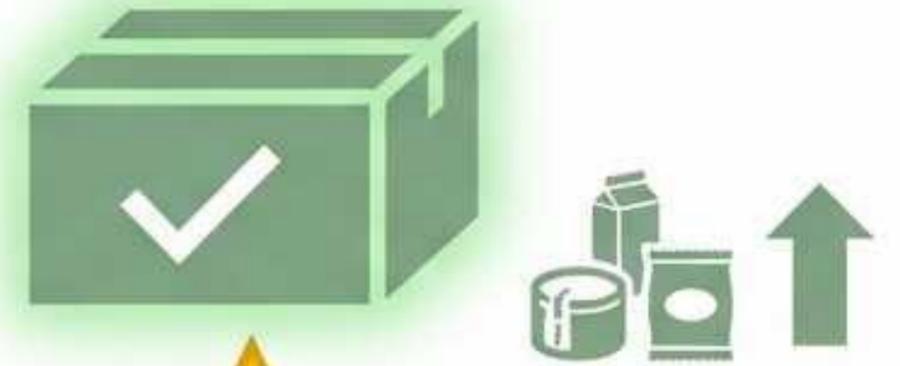
- 通常（年月日表示）の場合：長期間止まっていたコンテナ内の大部分が「賞味期限の逆転」を起し、出荷不可能（全廃棄）となる事態
- 年月表示商品の結果：期限の逆転が回避され、輸送再開後に戻った商品の【約8割】がそのまま正常に出荷可能に
- 物流効率化が、直接的に甚大な食品ロス削減へ繋がった実例

年月日表示（YYYY.MM.DD）



出荷不可

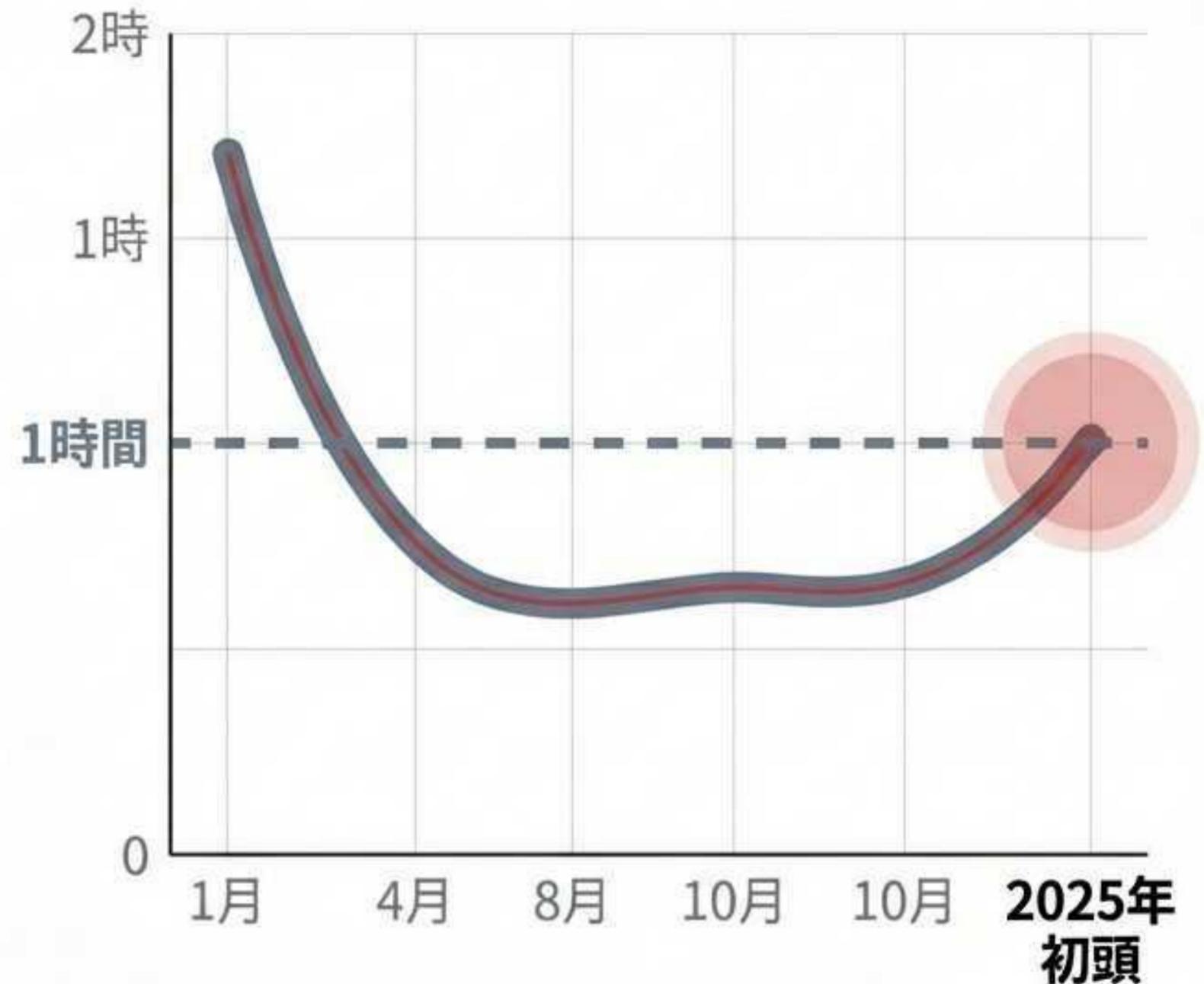
年月表示（YYYY.MM）



約8割が出荷可能！

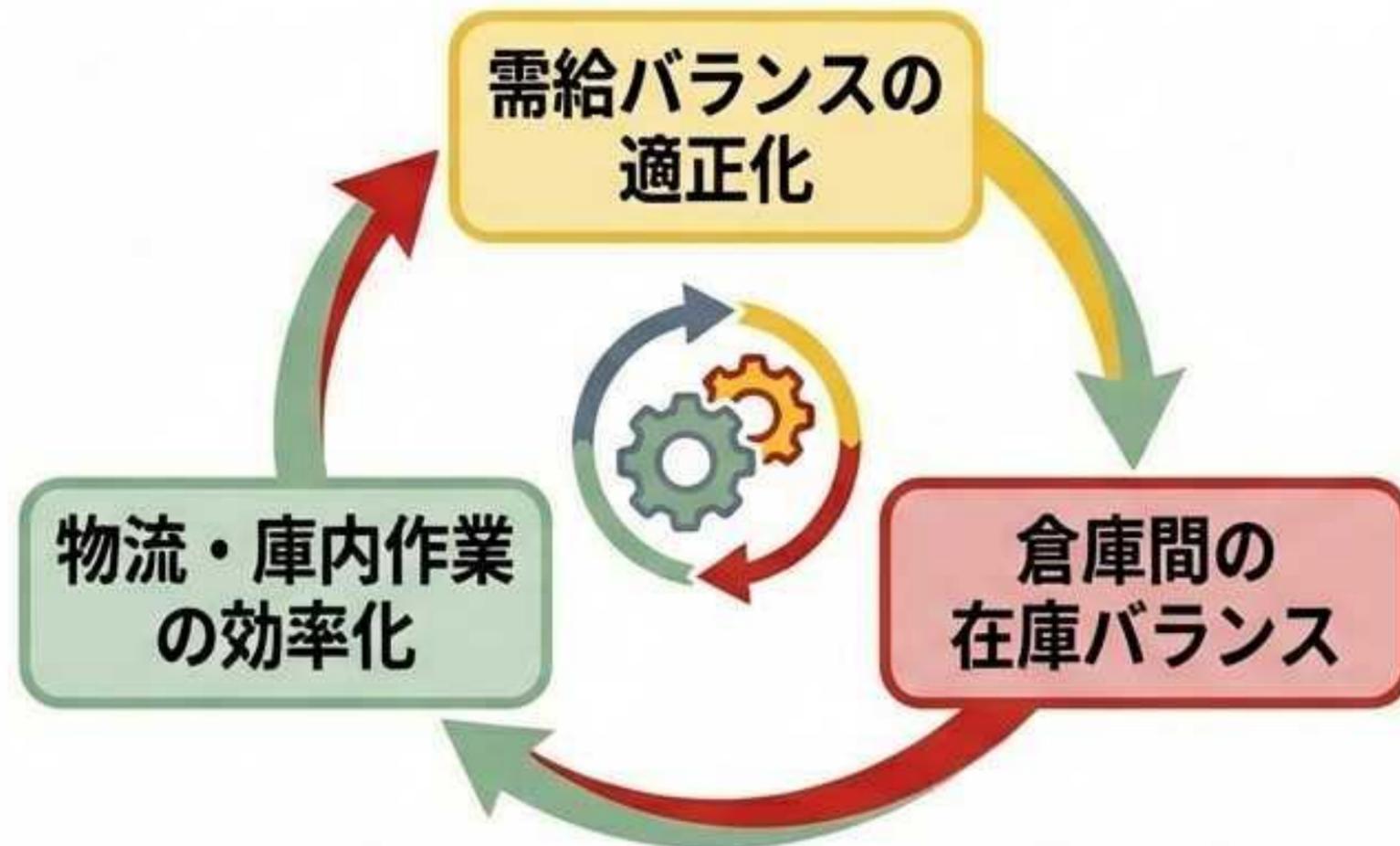
# 新たな壁：2025年初頭の課題

- 順調に見えた物流改革の後に現れた新たなリバウンド現象
- 2025年初頭、平均1時間未満に抑えられていたトラックの滞在時間が徐々に増加
- 再び滞在時間が1時間を超えてしまう状態が発生



# 根本原因の究明と次なる一手

- ・原因究明：需給バランスの乱れによる在庫の過不足が、ピッキングから積み込みまでの作業時間を増大させていたことが判明
- ・次なる一手：需給バランスの適正化、倉庫間の在庫バランス調整の強化
- ・生産から保管、出荷に至る「全体のモノの動き」を俯瞰した改善へ着手



# 物流最適化と食品ロス削減の継続

- 2024年問題への対策は、一時的な危機回避ではなく、持続可能なサプライチェーン構築への出発点
- 年月表示化をはじめとする各種取り組みの対象を今後も拡大
- 流通・小売の皆様との連携を深め、物流現場の効率化と食品ロスゼロの未来を追求し続けます



持続可能な物流

食品ロスゼロ